

学生僧侶被災者に寄り添う 南三陸

龍谷大大学院で臨床宗教師研修を受けている学生僧侶10人が3日、宮城県南三陸町の歌津総合支所で東日

本大震災の被災者と交流した。臨床宗教師は宗教や宗派を超え、布教を行わずに、被災地や医療現場で人々の悲嘆や苦悩に耳を傾け理解する「傾聴」を通じて心のケアを行う。

交流には、仮設住宅の住民ら約60人が参加した。交流に先立ち、研修主任の鍋島直樹龍谷大教授が「悲しいときは泣いても笑ってもいい。愛する人は心の中で生きている」と語りかけた。

津波で夫が行方不明となったままの女性(73)は「家

に閉じこもりがちだったが、元気をもらえた。若いお坊さんたちは話しやすい」。学生僧侶の吉井直道さん(23)は「笑顔の裏にある寂しさ、悔しさが強かった。傾聴を通じて同じ気持ちを感じられるようになりたい」と話した。

2015年6月4日(木) 朝刊

産経新聞 京都面